

町防災訓練

山桜の里 戸赤



水でふくれる
土のう袋の実験

一時避難

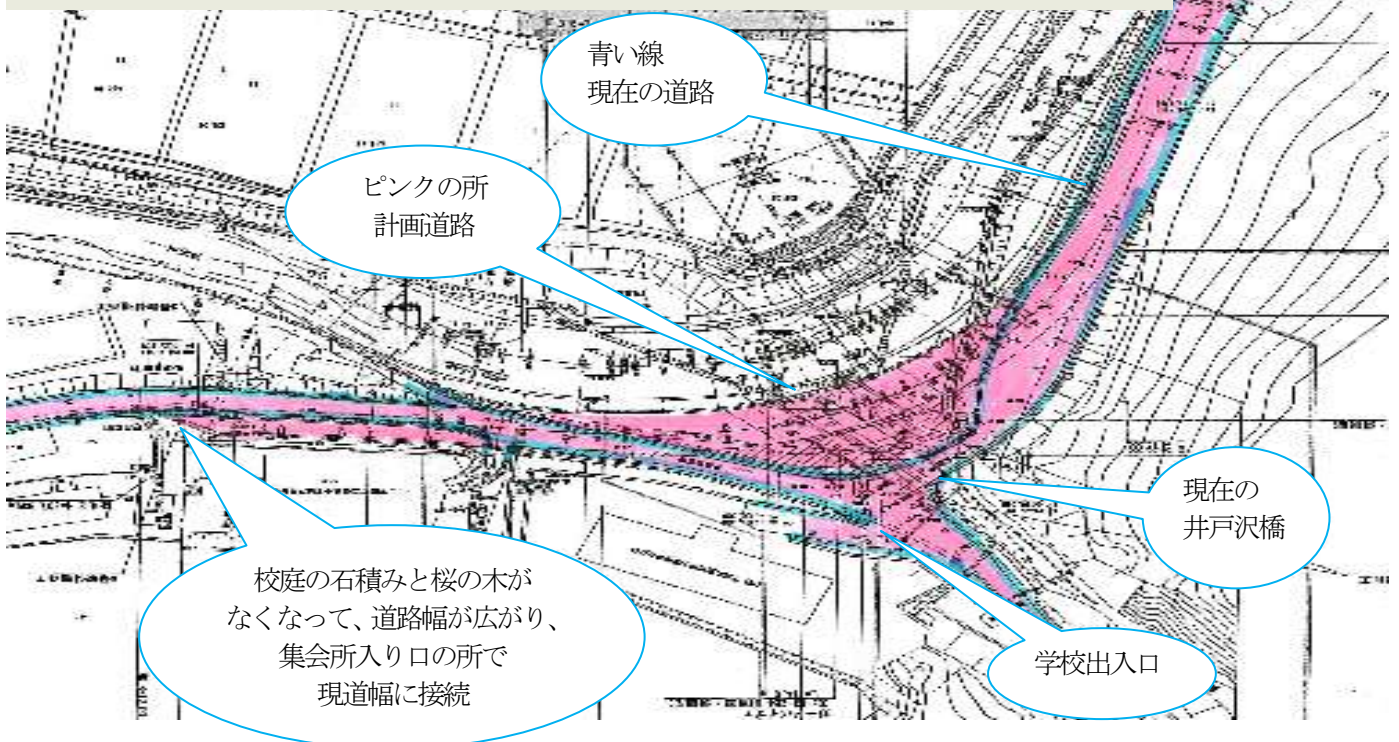


午前8時10分、町の緊急放送により戸赤集会所へ避難

訓練想定
九月六日(日)午前七時五十分、下郷町で強い直下型地震が発生し、町役場の震度計で震度6強を記録した。町は災害対策本部を設置し、住民の緊急時集合場所への一時避難を指示し住民の安全確保を図る。

「広がります。『学校前の道路』」

※川の工事が終わって道路工事がいつから始まるかなどは、わかり次第お知らせします。



【木地の学習No.59】保城と見沢から出たロク口軸の直径は八センチほどあり、綱を引いて回転させても、さほど早い回転数ではなかったように思う。また、軸の先端につく爪も大きなもので、多分お椀を挽いた軸ではなく、木鉢や木皿など大木のものを挽いた軸のようである。木製の軸のほかに鉄製のものがあるが、これは直径が三センチほどの太さで、ロク口の回転数ははるかに速い。回転が速いほどねばりのある刃物が必要であるが、よりなめらかな肌ざわりのいい椀が挽くことができる。また鉄製の軸の場合は、軸を支える部分が木ではもたないので、ホウキンという合金の金属を用いた。これでますます回転力が上がるようになった。鉄製の軸は、いつごろから使われるようになったかは不明であるが、針生の場合は明治末ごろには使っていたという話を聞いている。カナボウは、刃先のわずかな部分だけにイズハガネというハガネを使い、棒の部分は地金を用いた。イズハガネは会津若松の金物屋で仕入、鍛冶屋がこれを鍛えた。仕入れたばかりのイズハガネは炭素の含有量が多く、ねばりけのないものであった。それに稲ワラのアク(灰)と粘土をつけてホド(火床)の中に入れ、フイゴで風を送ってとろけ出す直前まで焼く。それをカナシキの上に乗せ、ハンマーでたたえて鍛える。これを何回も繰り返していくうちに、やわらかい、しかもねばりけのあるハガネになっていく。(会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より)〈つづく〉



小椋順子さん(左)
と星照子さん(右)
《渡部利男さんが
撮ってくれました。
次号に続く》

ちょっと
いっぴく
【6.26花植作業のとき】

「この先の天気」期待
「これから先の天気」
期待している。今のこ
ろでは、去年の三分の一
くらいしか採れないか
も知れない。夏の高温が
良くなかった。持ち直し
てほしい。」(談)

花豆
栽培



川が変わる

れきしの
ひとコマ



「晴れの日差しを取り込み、大急ぎで
熟してほしい。」と願う



台風 8 号による出水

(ストーリー性のある村づくりのために[No.27]・下郷町史 縄文時代の道具 木製の道具や骨角器などは腐ってしまい特殊な環境でしか残りにくい。ここでは下郷の遺跡から出土した石器と土製品から当時の暮らしぶりをみていきたい。狩猟・採集・漁猟など食料獲得のための道具 石鏃(せきぞく) 石製のヤジリで、大きくわけて無茎のものと有茎のものがあるが、地域的時間的変遷をその形状から知ることができる。…早期の鍬型鏃は、田島の石橋遺跡で出土している。田島上ノ台遺跡の発掘調査で出土した石鏃の場合、素材として黒曜石を選ぶ傾向が強いという。…文次郎遺跡からはオパール製の石鏃も出土している。…南会津においては後期以降有茎石鏃の出土が増加するようで、弥生時代末葉のアメリカ式石鏃は只見の唱崎(とのうさき)遺跡から出土しているが、これは副葬品と考えられる…。石匙(せきひ) …縦型と横型・その中間のものに分類され、片刃のものと両刃のものがあるが、何れも一端につまみが付く。皮剥(かわはぎ)ともいわれる万能ナイフで、アスファルトの付着するものがあり、柄がつけられた可能性も考えられる。縄文中期の寺前遺跡や上ノ台遺跡では大型の粗製品も出土している。『下郷町史-第7巻通史編(発行・下郷町)』より出典(続く)